

【高等学校用】

令和6年度学校評価計画

学校名	佐賀県立唐津商業高等学校定時制
-----	-----------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・全教科において学習指導を見直し、生徒が理解しやすい授業の実践に努めた。今後も実践を継続し、生徒にとって進路選択の幅を広げることができる学習環境を整えていきたい。 ・商業教育の充実については、商業科において展開授業や個別指導等のきめ細かな指導を実施することができ、検定合格状況も良好であった。引き続き、生徒の実態に即した指導に取り組んでいきたい。 ・学校行事において、生徒が自己有用感を感じることができる活動を取り入れることで、自己理解・自己管理能力の育成に努めた。キャリア教育の充実については、おおむね目標を達成できた。地域と連携した活動については課題があるので、今後も検討を継続する。
------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	【全定共通学校目標】幅広い知識と教養を身に付け、自ら考え行動する資質を育み、ふるさと唐津や我が国の発展に貢献できる人材（人財）を育成する。 【定時制学校目標】北部地区唯一の商業科定時制高校として、生徒のニーズに対応したビジネス教育を通して、幅広い知識と教養を身に付け、唐津地区・県・国の発展に貢献できる人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー ① 礼節を重んじ人を思いやる心を持ち、本校での学びに必要な学力を有する生徒を求めます。 ② ビジネスを学ぶことに興味・関心があり、専門的な知識・技能の修得や資格取得に意欲的に取り組むことができる生徒を求めます。 ③ 世の中の激しい変化に対応できるように自らを変え、成長するため、根気強く努力することができる生徒を求めます。 ④ 生徒会活動や部活動等を通して、学校の活性化に寄与することを期待できる生徒を求めます。	カリキュラム・ポリシー ① 知識・技能を活用する実践力を身に付けるため、検定資格取得の機会を設けます。 ② 教育講演会や各教科・科目の授業において幅広く外部人材を活用します。 ③ 探究活動を通じて、意欲的に地域について学び、地域行事や奉仕活動に参加します。 ④ 義務教育段階の学習について学び直しの機会を設けます。	グラデュエーション・ポリシー ① 様々な経済活動で役に立つ確かな知識や技能を身に付け、活用できる実践力を育成します。 ② 課題解決に必要な情報収集能力と情報分析能力を育成します。 ③ 自らの適性と世の中の動きを正確に理解し、自ら判断して行動する力を育成します。 ④ 自立した人間として、他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳心を養成します。
-------------	---	---	--

4 本年度の重点目標	A 高校生としての生活習慣の確立 学びに向かう基本的な態度を身に付け、学生としての適正な生活習慣を確立し、切磋琢磨しながらも向上心を持ち続ける学校集団の形成を目指す イ 学力向上 日頃の授業を大切にし、わかる授業、考える力（論理的思考力）をつける授業の実践とともに個人の能力に応じた的確で細やかな到達目標を設定し、能動的な学びを定着させる ウ 商業教育の充実 商業を学ぶ者として差別化できるだけの専門的な知識・技能の習得を目指す。また、人を幸せにするために最も大切である「ホスピタリティマインド」を会得することで、「働く」ことを意識した職業人になる自覚を持たせる エ 地域社会への貢献 常に社会貢献の視点を持ち、学校自らの情報を積極的に発信しながら、地域産業と積極的に連携し、地域と共存する学校づくりを目指す
------------	---

5 重点取組内容・成果指標	中間評価	最終評価	
---------------	------	------	--

(1)共通評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○基礎的な文字力・計算力の定着	○文字力テスト、計算力テストを年間各7回実施(前期4回、後期3回) ・文字力テスト 昨年度は約70%だった正答率を、今年度は75%以上を目標に取り組む。	・文字力テストについては3級レベルを中心に漢字の意味を理解し、正しく書き、会話や文章の中で適切に使う能力を育成する。 ・計算力テストについては個別指導も含め、全学年、基礎的数学技能を身に付けられるように指導する。 ・今年度は昨年度と同様に4科目に実施時間を設定し、全学年が一つの教室に集合して受験する。また、計画的な学習習慣の定着を目指す。 B	・文字力テスト、計算力テストとも当初の計画通り実施できている。アンケートでは生徒の約85%が基礎的な学力がついてきたと回答しているが、家庭学習の習慣化までは至っていない。	B	・文字力テスト、計算力テストとも当初の計画通り実施できた。 ・無断で早退する生徒もいたが、前向きに取り組む生徒も下級生を中心に増えており、来年度にむけての好材料だととらえている。 ・アンケートでは、生徒・保護者ともに学びなおしの良い機会ととらえている割合が高いことがうかがえる。	B	・社会に出てからの基礎学力の必要性を認識させる。 ・テスト実施のあり方や実施方法を工夫してみてもどうか。	教務主任 各教科主任 各担任		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自然とあいさつを交わせる生徒80%以上	・登下校や学校生活の中で、教員側から挨拶や声掛けを積極的に行うことで人とのふれあいの楽しさを伝え、生徒間に浸透させる。	B	・今後も生徒一人ひとりに積極的な声かけを行い、全生徒が人とのふれあいの楽しさを実感できるようにしていきたい。アンケートでは90%以上の生徒が、学校はルールやマナーを守るように指導を行っていると答え、気持ちの良い挨拶ができるようになった生徒が増えている。	B	・挨拶やマナーが大切だと考えている生徒が多いことがアンケートから分かった。今後、実際に行動に移せる生徒を増やすことが課題である。	B	・挨拶をするものの元気がない印象なので、今後は挨拶の仕方を重点的に指導したら良いのではないかと。	教務主任 各教科主任 各担任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの防止への取り組みについて組織的に対応できていると回答する職員90%以上	・いじめ防止基本方針について、保護者へ周知する。 ・いじめ対応に対する研修・会議を2回以上実施する。 ・生徒情報交換会を毎月実施し、職員間で情報共有を行う。	B	・アンケートを実施し、迅速に覚知できるようにになった。生徒情報交換会を定期的に実施し、教員間で生徒の事態把握を共有できる機会として有効に機能している。職員向けアンケートでは100%の職員が、いじめの防止への取り組みについて組織的に対応できていると回答しているが、今後も気を引き締めて取り組んでいきたい。	A	・いじめと覚知されるような案件はなく平和に過ごせた一年だった。しかしさらに親睦を深められる余地は残っており、友情やクラスの輪をより温かいものに進化させていけるかどうかという段階にしていると考えられる。職員向けアンケートで100%の職員が、いじめの防止への取り組みについて組織的に対応できていると回答したことを慢心にならないようにしながら、引き続きしっかりと取り組んでいきたい。	A	・学校の努力を感じる。 ・職員と生徒とのコミュニケーションが上手くとれている。 ・話しやすい環境を作ること、生徒も心の安全を保つことができてくると思う。	生徒指導主事 保健主事 教育相談係	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒70%以上	・献立表・食育だよりを発行し、食習慣の大切さについて積極的に情報を提供する。 ・教科担当者と連携して、食と健康に関する内容を取り扱い、指導する。	B	・6月に「食育講話」、10月に「おにぎりアクション」を実施し、生徒に実際に活動してもらう中で、食習慣の大切さを指導してきた。この活動については90%以上の生徒がアンケートで高評価をしている。一方、喫食率は55%くらいで推移しており、まだまだ課題は残っている。	B	・年間を通じて中間評価時と同様の状況であった。アンケートで食の大切さを理解している生徒が大半であるという現状を、いかに喫食率アップにつなげられるか、これが次年度への課題である。	B	・イベントを企画するなど学校の努力は伝わってくるが、喫食率が上がるようなアイデアを引き続き考えてもらいたい。	学校栄養職員 保健主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(1ヶ月80時間以下)の遵守	・学校閉庁日を設定する。 ・出退勤管理システムを定期的に点検し、定時出退勤を呼びかける。	A	・8月9日から16日まで閉庁期間を設定した。定時出退勤を呼びかけており、概ね目標は達成している。長時間勤務に陥っている職員数はゼロであり、今後も継続的に取り組みたい。	A	・日々の定時退勤を呼び掛け、退勤しやすい職場環境づくりに努めた。長時間勤務の職員はおらず、職員室の雰囲気も温和であり、良好な職場環境と言える。	A	・現状を評価する。	管理職	
●特別支援教育の充実	●特別支援教育に関する教員の意識の向上	○教員によるオンライン授業のためのTeamsへの100%参加	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・生徒の情報交換会の開催、授業担当者だけでなく教員全員で情報を共有する。	B	・日々の生徒への連絡などに日常的にTeamsを活用することで、技術的には全職員がスキルを身に付けている。今年度は今のところ特別支援を要する生徒が出てきていないが、出てきた場合の対応については学校内規の確立は今後の課題として依然残っている。	B	・技術的向上は順調に進んでいる。特別支援を要する生徒への対応は中間評価時より進めることができなかった。他校の動向を参考にしながら、次年度議論を深められたらと考えている。	B	・現状を評価する。	管理職	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○(独自評価項目・任意)	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合100%以上	・地域・企業等と連携した学校運営を行う。 ・学校ホームページ等を活用し、学校の魅力を積極的に発信する。 ・受験生向け説明会において広報活動に努める。	B	・学校説明会では問い合わせをいただくことが多く、本校への関心が高まっていると感じる部分もあるが、ホームページの活用や地域との交流についてはまだまだフル活用できているとは言えず、今後に課題を残している。	B	・学校ホームページで学校生活の様子を発信した。 ・11月と12月に開催された進学説明会に参加し、広報活動に努めた。 ・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合は83%、職員の割合は100%であった。	B	・入学した生徒の期待に応えられるように今後も引き続き教育活動を頑張ってもらいたい。	管理職
○(独自評価項目・任意)	◎職業観・勤労観の育成 ○キャリア教育の充実と希望進路の実現	○アルバイトの就労率70%以上 ○アルバイト先の訪問を実施し、責任者との情報交換を行う。また、生徒の働いている状況等について観察する。 ○卒業予定者の希望進路決定率100%	・アルバイトを奨励しつつ、学業を優先した教育を行う。 ・生徒・保護者・学校の情報共有を密にし生徒の指導に生かす。 ・1～3年生についてはキャリア・パスポート活用の充実を目指す。	B	・アルバイト就労率は55%程度を推移している。卒業生の進路先決定については未定者が多く、今後しっかりと対応していきたい。	B	・アルバイト就労率は55%程度を推移している。卒業生の進路先決定については中間評価以降は、就職内定者が2名増えたが、一方で未定者も多い、今後しっかりと対応していきたい。	B	・将来に夢や目標を抱いている生徒の数を一人でも増やせるように尽力していただきたい。	進路指導主事
○(独自評価項目・任意)										

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・ 次年度への展望	・学校の様子は非常に穏やかで過ごしやすい環境になっている。一方で、私生活が乱れている生徒や進路意識の希薄な生徒が一定数いる。今後は、保護者との連携をより一層強めつつ、学校外での過ごし方にも焦点を当てた関わりが求められているように感じられる。 ・いじめの覚知・認知がゼロで、人間関係に關しての生徒からの深刻な相談はなかった。しかし、裏を返せばそれだけ人間関係が希薄という評価とも受け止められるので、今後はより深く豊かなコミュニケーション能力や人間関係の構築につながるような声掛けや導きを心がけていきたい。 ・Teamsによる課題や学校からの連絡の配信を使用することでアンケート回収がスムーズになったり、生徒からの質問や相談を受けやすくなりした面があるので、今後もICTの利活用が生徒との深いコミュニケーションにつながるように工夫したい。一方で、ホームページの内容がここ数年とあまり変わらなかったで、次年度は管理職と担当でバージョンアップを図り、広報活動の一助としたい。
--------------------	---